

《教育長メッセージ 第3号》

『故郷』

私の故郷は、宮城県南三陸町志津川です。

三陸のリアス式海岸の海の町です。「われは海の子」で、海と山に抱かれて、美しく豊かな自然の中で育ちました。



ご承知のとおり、震災で町は津波に飲み込まれ、町の様子は一変しました。私の実家も流されましたが、ひとりで暮していた母が、懸命に逃げて命をつないでくれたことが、私にとって、何よりの救いでした。

故郷の風景は、目を閉じると、いつでも、まぶたに浮かんできます。

私は、もうすぐ60歳を迎えますが、不思議なことに、年齢を重ねるごとに、まぶたに浮かぶ映像は鮮やかになり、子どもの頃の昔に戻ります。

私は、故郷に感謝しています。

中学を卒業すると同時に志津川を離れましたが、生まれてからの15年間で、私の五感に故郷が染み入っているからです。波の音、潮の香、海のしょっぱさ、潮風の心地良さ、海と生が織りなす絵画などなど。

もちろん、育ててくれた両親やともに育った兄弟、友人に感謝しているのですが、私の記憶と細胞に、故郷が刻み込まれていて、今の自分を形作っているということが、本当にうれしいのです。ありがたいのです。

だから、私は、故郷に感謝しています。

みなさんの故郷はどこでしょう。

今でも、故郷に帰るのでしょうか。

時々、遠くの故郷に、思いを馳せてほしいものです。

そして、目の前の子どもたちにとっては、ここ、海老名が故郷になります。私は、自分のこれまでと重ねて、子どもたちにとっての、故郷、海老名を思うのです。

次回は、「勉強」についての考えをお伝えします。